

新潟こだけ物語

想い | つくる | 伝える

新発田市

新潟市

[Fuud]

2026
夏号

—— 季刊 ——

新潟とアニメ

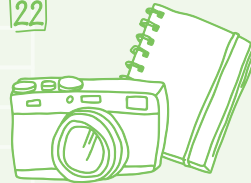


今回の取材テーマ

アニメーションを作ってみた

取材メモ

22



カメラマンの

わたべ

私が幼かった1960年代、「鉄人28号」と「鉄腕アトム」が初めて出会ったアニメーションだった。以来視聴しない日がないくらい多くのアニメに触れてきた。アニメは世代を超えて楽しめるので、今でも家族でよく視聴する。我が家のお気に入り、アニメの神様・ユージ・ノルシュテインの「霧につつまれたハリネズミ」。緻密なコマ撮り手法で制作された幻想的な世界には強く引き込まれた。

このコマ撮りアニメーションは、被写体を少しずつ動かしながらカメラで撮影し、それをつなげて動画にする。カメラがあれば誰でも作れるので、一度挑戦してみたいと思っていた。もちろん絵を描く才能はないので、主人公は針金で作った“ハリガネマン”。こいつが岩の上からジャンプして木の枝にぶら下がるまで、約2秒の動画とする。

まず床に背景紙を敷き、その上にガラスを30センチほど浮かせて固定す



る。ガラスの上にサザンカの枝と石板を載せ準備完了。あとはハリガネマンにガラスの上で演技をさせながら撮影していく。思ったより順調に進み、写真は全部で30カット、1時間ほどで完了した。

現代では撮影した静止画を、動画編集アプリに取り込んで動画化するのが一般的だが、それでは面白くない。子どもの頃、教科書のページの端のほうを使って作ったあれ、“パラパラアニメ”でいくことにした。

撮った静止画をプリントして片側をクリップで束ね、親指でパラパラすると…「おおー! ハリガネマン、見事なジャンプ」。大した動画でもないのに無性に嬉しい。

自分で作ってみたことで、今までアニメに親しみすぎて気が付かなかったことを発見した。それはシンプルに「絵が動く」ことの驚きと喜びだった。

写真、文章／スタジオF(t) 渡部 佳則



- ①コマ撮りした「ハリガネマンのジャンプ」。アニメーション用では約30カット使用した。
- ②撮影風景。途中でカメラが動かないように頑丈な三脚を使用。
- ③写真を束ねたパラパラアニメ。シンプルだが手の中で動いて楽しい。

編集後記

『アニメ恐るべし』。日本アニメの名作『火垂るの墓』の原作者、野坂昭如(あきゆき)が劇場公開を前にして発表した文章の一節である。現代のサブカルチャーに疎いものでも、この簡潔な一文で日本アニメの芸術性を理解できる。『火垂るの墓』は現在190カ国にネット配信され、劇場版『鬼滅の刃』も海外で大ヒットし記録的な興業成績をあげているという。68年前、東映動画の創業者・大川博と画家の落谷虹児らのスタートアップが、いままさに大輪の花になって咲き誇っている。その足元には漫画文化に抵抗感のある国々で市場開拓した配給会社の営業努力があり、より完成度を高めるために絵を描きつづける技術者がいる。アニメの美しい画像の裏側に無名の制作者が数多(あまた)いることを時々思いだして欲しい。ちなみに『火垂るの墓』は、五泉市出身の近藤喜文がキャラクターデザインと作画監督を担当した。野坂も旧制新潟高等学校で学んでいる。(波川)

ふうど 2026夏号 vol.73

企画編集 高橋 佑
発行人 渡川 綾子
取材編集 田 巻 悠
協力 田中 榮二
写真 渡部 佳則
デザイン 斎藤 達司
題字 小林 翠

発行所

株式会社 **タカヨシ** **ふうど** 編集室

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 私たちは新潟の食・文化・風土の伝承を通じて持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

■本社・工場／〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800
■東京支社／〒113-0034 東京都文京区湯島3丁目24-11 湯島北東ビル2階 TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884
■上越営業所／〒943-0805 新潟県上越市木田2丁目1番1号 上越セントラルビル5階2 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 520-7049
■東北営業部／〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉5丁目3-47 上杉オオウラビル501号室 TEL (022) 266-1711 FAX (022) 266-1712
■東海・関西営業部／〒464-0025 愛知県名古屋市中千種区桜が丘295番地 第8オオタビル7階 TEL (052) 753-8080 FAX (052) 753-8081
■公式サイト／https://www.takayoshi.co.jp

「ふうど」はここに置いてあります

【新潟市】<中央区>ANAクラウンプラザホテル新潟、NST、上古町商店街、旧小澤家住宅、県立自然科学館、砂丘館、佐藤商会、佐渡汽船ターミナル、田中屋本店みなと工房、朱藤メッセ、新潟絵屋、新潟 加島屋本店、新潟県庁広報展示室、新潟県民会館、新潟県立図書館、新潟国際情報大学、新潟中央キャンパス、新潟市生涯学習センター、新潟市食育・花育センター、新潟市立中央図書館、新潟商工会議所、新潟市歴史博物館、新潟ユニゾンプラザ、ピアBandal、ホテルイタリア軒、ホテル日航新潟、リョーとぴあ新潟市民芸術文化会館 <東区>新潟空港、パティスリーカフェオールラン <西区>新潟ふるさと村、新潟大学附属図書館、佐潟荘 <南区>新潟市農業活性化研究センター <北区>新潟せんべい王国、ビュー福島潟、濁川公民館 <江南区>介護老人保健施設亀田園、新潟市立亀田図書館、北方文化博物館<西蒲区>カーブドット、ドメス・ショオ <秋葉区>カフェギャラリーやまぼうし、川内自動車、新津鉄道資料館、むらき呉服店

【新発田市】加治川地区公民館、紫雲寺地区公民館、新発田市生涯学習センター、新発田市民文化会館、新発田市立図書館、豊満地区公民館、落谷虹児記念館、ホテル華鳳 【聖 籠 町】聖籠観音の湯 ぎふーん

【五 泉 市】ラポレテ五泉 【村 上 市】イヨボヤ会館、村上市観光協会 【長 岡 市】新潟県立歴史博物館、長岡市立科学博物館、長岡大学、長岡市立中央図書館、やまこし復興交流館おたる

【燕 市】分水ビクターサービスセンター 【加 茂 市】橋の家 【出雲崎町】越後出雲崎天領の里 【十日町市】十日町市観光協会、十日町市博物館 【南魚沼市】樺苑

【上 越 市】上越観光コンベンション協会、上越市立水族博物館うみがたり、上越あるん村

【佐 渡 市】SADO伝統文化と環境福祉の専門学校、ホテル大佐渡、佐渡市立図書館

【東 京 都】<千代田区>新潟市東京事務所

本誌に掲載されている写真等の無断転載はご遠慮ください。

Take Free

ご自由にお持ちください

大正から昭和初期、凜とした乙女を描き少女たちを夢中にさせ、『花嫁人形』の歌で知られる新潟出身の抒情画家・落谷虹児が晩年に初めて挑んだアニメ作品『夢見童子』の原画類。
(新発田市 落谷虹児記念館)

エコプレス
バイندر

針金・糊・加熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。

RICE
INK

この印刷物は環境にやさしい米ぬか油を使用したラミネートで印刷しています。

北前船の寄港地として栄えた新潟の先人たちは、新しい文化を吸収し、時代を先駆ける産業をおこしてきた。そんな挑戦の遺産子を見える化するように、アニメ文化を土壌に、アニメ産業の集積地をめざすプロジェクトが始まっている。その先導役が新潟国際アニメーション映画祭である。いったい、どんな映画祭なのか。なぜ新潟なのか。

『ふとう』が宝になる

想い 人とまちが資産

ローカルの出番

すっかり春めいた二月二十日、今年で四回目を迎えた新潟国際アニメーション映画祭の開幕を告げるフォーラムが開かれた。会場の日報ホールは若い世代の熱気に包まれ、新しい時代の到来を告げていた。ところどころに海外の人の姿が見え、同時通訳の声とともに開港都市新潟が、明治初頭に先人が夢見たグローバルな舞台に立っていることを実感した。

「アニメーションの未来像」をテーマにしたこの日、文化庁や新潟県の担当者、映画祭の実行委員長が次々に登壇し、それぞれの視点から映画祭

をフックとする新潟の国際化に向けた取り組みをスピーチした。それらの話から新潟で自然発生した多彩なアニメ文化と、それを育んだ新潟の集積地を形成する最適条件になることを初めて知る。なんかワクワク！ 壮大な『アニメバレー構想』が実現しそうな予感がしてきた。

たしかに新潟市には市出身の著名な漫画家が多い。四十年以上の歴史があるマンガ同人誌の即売イベントもある。アニメ・マンガを教える専門学校や大学の学部も揃っている。さらに新潟市が全国に先駆けて開設した新潟市マンガ・アニメ情報館は、国内外からファンの来館が絶えない。

時折、可愛いラッピングバスが走行するなど、知らず知らずのうちにアニメ・マンガ文化が浸透していた。そして海外メディアが注目した歴史があった。日本アニメの基礎を作った東映動画（現・東映アニメーション）の社長の大川博と抒情画家の落谷虹児は、ともに新潟出身だったのだ。それにしてもフォーラムではビジネスとしてのアニメ産業の実態が見えないことが少し気になった。アニメは、どこで作られているのだろうか。

となりの制作スタジオ

後日、県内に七社あるアニメ制作企業のひとつ、新潟市中央区の株式会社新潟アニメーションを訪ねた。

スタジオは柳の街路樹が続く寺町・西堀通に面したビルの一階にある。四百年以上もの歴史を沈める落ち着いた街で、世界基準のアニメが制作されていたのだ。一般のオフィスと変わらない一室で、十数人の若いスタッフがパソコンを前に黙々と作業をしていた。声をかけるのを憚れるほど静かな室内に、マウスをクリックするカチツカチツという音だけが、人の動きを伝えている。拡大したキャラクターに微細な修正をしているのだろうか、喰い入るような眼差しに、より完成度をめざす職人魂を見た。

代表の内田昌幸さんが、アニメの

四年目の映画祭

内田さんは、スタジオ経営をしつつ映画祭の実行委員会事務長としての重責も担う。今年の成果について「映画祭の大きな特徴は、二つあります。まず若い才能の発掘・育成に重点をおくコンペティション形式の映画祭であることです。国内外からのエントリー作品を審査し入賞した作品を市内の上映施設で公開するのですが、驚くことに今年は世界五九カ国から二七四作品ものエントリーがありました。それは昨年の実績の四・六倍です」。それは凄い！ その原

国内外からアニメーターをめざす若手を招待し、アニメ界のマスタークラスと交流する場を設けたアニメーションキャンプの様子。（映画祭実行委員会提供）

「アニメーションの未来像」をテーマにしたこの日、文化庁や新潟県の担当者、映画祭の実行委員長が次々に登壇し、それぞれの視点から映画祭

移す動きがあります。とくに三十代のクリエイターのなかに東京で働く意味がないと思う人が増えていきます。移転先は札幌、仙台、新潟、大阪、京都、福岡などがホットスポットです」。それだけの大都市のなかで、なぜ中規模都市の新潟が注目されるのか。「それは新潟県人の気質です。厳しい自然が真面目なクリエイターを育てます。県外の業界人から新潟出身の人は真面目で間違いない仕事をすると、よく言われます」。そっかアニメバレー構想の最大の資源は、真面目な人材だったのか。ここでも新潟の『普通』が注目されていた。



2026年2月20日から25日まで開催された第4回映画祭のパンフレットとスタッフ用バッグ。



2025年秋に劇場公開され大ヒットしたスポーツアニメ『ひゃくえむ。』の監督、岩井澤健治のトークショー。（映画祭実行委員会提供）

因は「個人的に頑張っている人たちに応援できれば」と思い、インディーズ・ボックスという一般の人が応募しやすい短編部門を設けたことで応募の裾野が広がったからです」と説明する。続けて「もう一つの特徴は、映画祭に訪れた人が街も楽しめること。回遊性のある都市型映画祭であることです。新潟駅前から萬代橋の東西に点在する上映会場までの動線に、ポスターを掲出し統一感と期待感を演出しました。また古町・本町の商店街とのタイアップイベントも行い、これらの工夫で冬季にも拘わらず六日間の期間中、四・二万人を動員しました」。なんとその規模は、アジア最大級の映画の祭典になったそう。うだ。その他、アニメ業界をめざす若者を国内外から招待し、マスタークラスと交流する次世代の育成プログラムが好評だったことなど新体制で迎えた映画祭の成功を喜びつつ、内田さんは「映画祭の最終目標は、新潟のアニメ産業の振興。それまでの道のりは、まだまだ遠い」と言を強めた。来年は三月に開催される。

この映画祭では日本アニメの黎明期に活躍した新潟県出身の東映創業者・大川博と抒情画家・落谷虹児をリスペクトする特別賞を設けている。

では画家の落谷虹児は、どんなアニメ作品を作ったのか。虹児が手がけた『夢見童子』の原画がある新発田市の落谷虹児記念館に行ってみる。



新潟アニメーション代表の内田昌幸さん。新潟国際アニメーション映画祭実行委員会の事務局長でもある。

新潟市の歴史が漂う街並みにある新潟アニメーションのスタジオ風景。

アニメも創った落谷虹児

つくる 抒情画家の矜持

落谷ワールド

あった、あった。落谷虹児が東映動画（現在の東映アニメーション）に招聘され、原画・構成・演出と歌詞まで担当した短編カラーアニメ『夢見童子』の主人公が目の前ですやすや眠っている。七十年ほど前、文部省選定作品として制作されたアニメの原画である。その時、虹児は六十歳。それまで雑誌の表紙絵や新聞小説の挿絵、絵本など紙媒

体の作品をつくり続けてきた画家が、当時の最先端だった『動く漫画映画』に挑んだ意欲作なのだ。同時に国内で開発されたばかりのフィルム用カラーインクを使った東映動画初の作品でもある。

『夢見童子』は良い子には夢を与えるという江戸時代の伝記物を題材にした小さな物語。が、虹児は日本らしさを強調するために時代を天平時代に設定したことを劇場用チラシのなかで説明している。目を凝らしてみると、足を組んでいる童子の衣装の膨らみがグ

人画と同質な気品と静謐さを漂わしている。

展示説明をしてくれた落谷虹児記念館の伊藤千佳子さんは「虹児は十五歳で新潟市出身の日本画家・尾竹竹坡の内弟子になり、浮世絵師・鈴木春信の美人画をはじめ古典的な絵巻物などの模写を精力的に行っています。虹児の作品に共通する、くっきりした線の描き方と線の緻密さは竹坡の内弟子時代に培われた日本の伝統的な技法がベースになっています。後に挿絵画家としての道を拓いてくれた竹久夢二の作品もたくさん模写しています」と説明し、続けて虹児独自の世界観が育まれていく過程を教えてください。

「挿絵画家として大人気だった二十七歳の時、へ自分は画家になりたい」と決意し、妻のりんと一緒にパリに渡り、四年間、生活苦に耐えながら画家になる勉強を続けました。当時のパリはエコール・ド・パリと呼ばれた時代で、世界中の芸術家が集まりお互いにリスペクトしあう芸術の都でした。虹児はパリにいる間、西洋の技法を吸収しながら、日本人のアイデンティティを表すために、敢えて日本画材を使い

気でメッセージがストレートに伝わり感動が早い。それに比べ『夢見童子』は詩的すぎて感動が伝わりにくい。でも見終わった後に、じわじわと感動が湧いてくるものがあります。それは隠喩や暗喩を大切にする詩人でもあった虹児が辿りついたアニメによる詩的表現でした」と解説する。その制作コンセプトについて虹児は、次のように語っている。

『私は思う。子どもたちに、未熟な果物を与えてはならないように、未熟な、いやしい絵を与えてはならない』。

記念館に展示されている完成度の高い数々の原画が、その言葉を物語る。

東映動画と落谷の関係

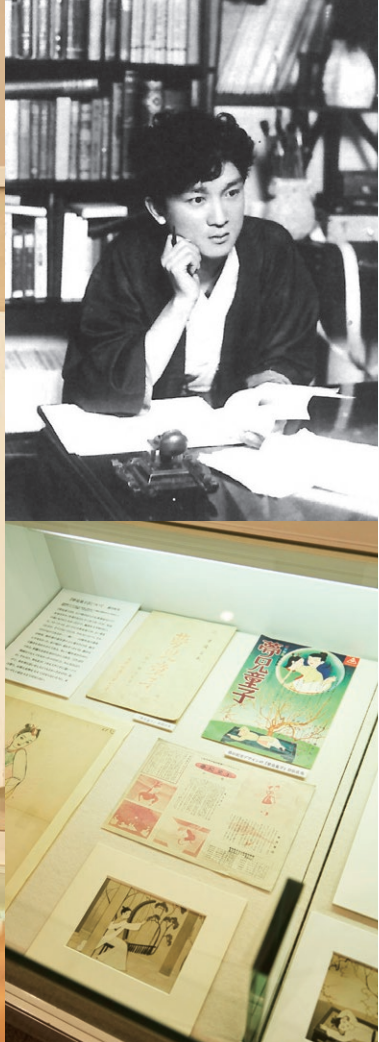
それにしても画家である虹児が、東映動画になぜ顧問として招聘されたのか。その背景に海外市場を意識しディズニーとは異なる日本のアニメづくりをめざした社長・大川博の営業戦略があった。同時にテレビ時代の到来を目前にし、子ども向けのテレビアニメの制作も計画された。そのために大川は近代的なアニメスタジオを建設し、家内制手工業的な制作態勢から日本初の企業形態へ転換させた。さあ、ここで問題になるのが新



東映動画スタジオでスタッフたちと打ち合わせをする落谷虹児。右奥の眼鏡をかけているのが虹児、左が当時のアニメ制作界のレジェンド山本早苗。



物語の主人公と心優しい少女の原画を前に絵の特徴を説明する伊藤千佳子さん。



『夢見童子』の原画や映画館のチラシ、進行台本など貴重な資料が展示されている記念館2階の展示コーナー。

作品づくりをしています。この西洋と日本をミックスさせた技法が、虹児独自の作品世界を創りだし、パリに滞在中、春秋に開催される国の公募展で毎回入賞し、個展を開いたほど画家としての実力と人気を得ました」。そうか日本での名声を捨て本格的な画家をめざした虹児は、なかなかの挑戦者だった。

静かなる動画

『夢見童子』の反響は、どうだったのか。アニメが好きだという伊藤さんは『白雪姫』などのリズミカルなディズニーアニメが流行っていた当時、ゆるやかなテンポで進む抒情的な作品は、斬新でしたが異端的で、その評価は分かれま

しいアニメを創造できる人材。日本のアニメ制作は、大正時代から始まっており、戦時中は海軍の広報用、戦争直後は児童向けの教育教材として命脈を保ってきた。その伝統的スタイルを継承してきた制作スタジオを吸収し東映動画が誕生した。が、新ジャンルの作品づくりには、既成概念をもたない業界以外の新しい才能が必要だった。そこで画家や漫画家、挿絵画家など別の分野で活躍する人材が制作スタッフとして招聘され、虹児もそのうちの一人として新時代の作品づくりに参画した。一日置きにスタジオに通い、一年がかりで『夢見童子』を完成させたのである。

この作品が公開された六ヶ月後、東映動画による日本初の長編カラーアニメーション『白蛇伝』が公開され話題になった。

後に名を馳せる宮崎駿や高畑勲は東映動画に籍をおいた時期がある。



虹児が生後まもなくから幼少期を過ごした場所に近い新発田市の文化ゾーンの一画にある落谷虹児記念館。



1929年（昭和4）、虹児がパリ・シャンゼリゼ通りの画廊で初めてひらいた個展の告知ポスター。

忘れがたきふるさと

伝える 異才を育てた土壌

一生忘れない面白さ

大川博がいかに日本的なアニメ制作に情熱を燃やしたかを、『白蛇伝』の告知用フィルムが物語っている。それは、どんなに多くの文字資料をもつても語り尽くせない時代の空気を伝えている。

『国際性をもつ総天然色の長編映画が完成しました。この作品は大人も子どもも一生忘れない面白さです』と、なんと社長自らがスクリーンに登場し、観客に語りかけている。あわせて大勢の社員が白手袋をはめてセル画を描くスタジオの様子が映しだされる。この六分ほどの映像は『白蛇伝』がいかに画期的だったかを明瞭に伝えている。スクリーンのなかの大川は、なかなかチャームिंगだった。

落谷虹児は大川率いる東映動画に招聘され、東映動画（東映教育映画部製作）としては初の国内向けカラーアニメ『夢見童子』を手がけた。大川と虹児は、ともに六十代。奇しくも同じ社内でおなじ夢を共有していたのである。二人が直接交流した証言は見当たらないが、限ら

れた資料から二人には共通する気質があることに気づく。それは先進性と我が道をいく芯の勁さだ。この気質は何によるのか。ここからは新潟生まれの大川と落谷の人間像と、そのルーツにスポットをあててみよう。まず大川から。

名家のガキ大将

『越後平野のまっただ中、果してもなく広い田園のひろがり、私にとって、その思い出のワンパク舞台だった』と、自伝『この一番の人生』



大川博が67歳の時に発行された自伝『この一番の人生』。東映動画を創業した大川博。（新潟市中之口先人館提供）

（実業之日本社発行）に少年時代のことが記されている。

一三〇年まえの明治二十九年（一八九六）、大川は新潟市西蒲区羽黒で代々庄屋を務める名家の七人兄弟の末っ子として誕生。家伝によれば戦国武将を先祖とし、江戸期を通じて「おやさま」として村人から崇められる家柄だった。しかし明治維新で庄屋格をとりあげられ、家産は傾き多くあった田地田畑も売り尽くし、最後に牛乳の製造販売で大家族の生計をたてた。そんな家の盛衰を知らない大川少年は、近所の子どもをひきつれて悪戯のかぎりを尽くした。後に『映画を知らない社長』と社内の反発を受けながら東映を再建し、次々に異業種に進出していくリーダースhipの種は、少年期に植えつけられていた。そして少年の得意は、算盤。成績はそれほどでもなかったが、算盤だけは誰にも負けなかったし、好きだった。それが国鉄の経理畑ひと筋に歩む動機になる。とくに監査部門に長く籍を置いた経験から、数字に強く、公正を貫く職業倫理が身につき、後世に語り継がれる何があっても頑として譲らないワンマン社長を産んだ。

大川の生まれ育った故郷に行ってみた。そこには百年前と変わらない水田と大空が織りなす越後平野の原風景が広がっていた。空中を走る

とって天国だった」と三村さんは説明する。

愛おしい故郷

三村さんは自分が落谷家の親戚であることを、虹児の三男で落谷虹児記念館の館長だった故・龍夫氏から聞き、その際「高齡の自分の代わり、一族の歴史を調査してほしい」と依頼されたのを契機に、虹児と三村家の歴史を精力的に調べている。明治初期に本格的な新聞が発行された時期から記事や広告を丹念に読みこみ、歴史を裏づける一次資料にしている。その膨大な調査から発掘した記事のなかから落谷傳松の死亡広告を見せってくれた。そこには虹児の本名と弟二人の名前と並び、傳松の兄・三村与一郎の名が記され、落谷家と三村家のつながりを証明していた。続いて虹児がパリへ渡航する直前、新潟市に帰郷した時の新聞記事を見せてくれた。そのなかに

三村さんは自分が落谷家の親戚であることを、虹児の三男で落谷虹児記念館の館長だった故・龍夫氏から聞き、その際「高齡の自分の代わり、一族の歴史を調査してほしい」と依頼されたのを契機に、虹児と三村家の歴史を精力的に調べている。明治初期に本格的な新聞が発行された時期から記事や広告を丹念に読みこみ、歴史を裏づける一次資料にしている。その膨大な調査から発掘した記事のなかから落谷傳松の死亡広告を見せってくれた。そこには虹児の本名と弟二人の名前と並び、傳松の兄・三村与一郎の名が記され、落谷家と三村家のつながりを証明していた。続いて虹児がパリへ渡航する直前、新潟市に帰郷した時の新聞記事を見せてくれた。そのなかに



新潟文化史研究家、新潟インディーズアニメスタジオ代表の三村哲弘さん。

『故郷は懐かしい(略)、私はたまたなくなつて泣いたような次第です』と、こちらの涙も誘う虹児の感想が語られていた。この三村さんの熱量に、だんだん虹児の姿が重なってきた。三村さんは現在、虹児と同様にアニメ制作にも携わっている。

大川博と落谷虹児が懐かしみ愛した故郷は、いまでも変わらぬ青い空があり、海風が吹いている。この風土のなかで日本アニメ界の先陣をきつた先輩が、少年時代を送っていたのだ。この二人の鬼才は、新潟国際アニメーション映画祭がめざす目的地まで、頼れるパートナーとして、ともに走り、励まし続けてくれるだろう。



落谷虹児が使用していた画材類。（落谷虹児記念館）



大川博の故郷、新潟市西蒲区中之口地区のはさが続く風景。

インフォメーション

株式会社 新潟アニメーション

〒951-8061 新潟市中央区西堀通3番町790番地 西堀501ビル 2F
TEL 025-378-3316

一般社団法人 新潟国際アニメーション映画祭 新潟事務局

〒951-8061 新潟市中央区西堀通3-258-48-301

落谷虹児記念館

〒957-0053 新発田市中央町4-11-7
TEL 0254-23-1013

新潟インディーズアニメスタジオ

mail:nias202508@gmail.com

読者の声 ～前号を読んで～

時代が作った英傑

堀直寄公。綿密な取材で実像がよく伝わりました。英傑は時代が作り出すものですね。しかし直寄の才は、どの時代でもきっと傑出した業績を残したであろうと思います。我が佐倉にも幕末の日米修好通商条約締結の大任を果たした、当時の総理大臣級の堀田正睦（まさよし）がおり、ハリスの記念碑が佐倉城址にあります。

（佐倉市 80代男性）

金峯神社付近にある直寄像

銅像をはじめ見たのは、小学校高学年の頃。金峯神社の流鏑馬に行き、付近を散策していたら偶然発見した時です。その時は銅像が誰なのか、どうしてそこに立てられたか知らなかった。後に堀直寄の名を知ったが、先号で氏の功績について初めて知り、銅像が立てられた意味を納得しました。

（長岡市 70代男性）